

標 題 Re: (岡崎市国際交流協会)フフホト市高校生訪問団の受入れについて

寄稿者: 森田陽子
題名: 心遣い

この度は、我が家にとって2回目のホームステイ受け入れとなりました。

実は…寒い時期であったことと、自由行動が平日なこと、ギリギリの日程だったこともあり、家族の中でも2対3で反対派が拒否。私(母)が強引に受け入れを決定したものの、どうなることかと心配もありました。

しかし！彼が帰る日、3息子からは、「短すぎる！」「つぎはいつ来るの？」と、まだまだ杜君、18歳との時間は足らなすぎたようで…やはり今回も、家族みんなにとって有難い&貴重な経験となりました。

私自身も、彼と彼の持つ習慣や振る舞いに魅了され、私たちが、私が、忘れかけている周りの人への気配り、気遣いを思い起こさせてくれた気がします。

食事時、私が何か取りに席を立つと、必ずその度に彼も席を立ちました。食事は残して構わないことを伝えても、出したモノは全て食べてくれ、食事の前後は必ず手伝うと申し出てくれていました。何をする時にでも、すぐに次の動作に手を差し伸べてくれました。

それらのご両親や先生方からの教えの中で培ってきたものだと思いました。欧米の個を大事にする風習とはまた違う、何か懐かしいような、温かいような、そんな気持ちになれた4日間でした。

少し中国語を勉強して、何年後か彼に会いに行こう！と、親子で話しています。ありがとうございました。